

# 学生新聞

## 第四回埼玉フェスタ 盛況裏に終了

十月九日(土)〜十日(日)に開催の第四回埼玉フェスタは、学生、同窓生、一般の方々が多数訪れ終日賑わいました。初日の九日は健康体操クラブのデモ体操に始まり、熟年会のパソコン初心者教室、中国語サークルの中国映画「阿Q正伝」の観賞会がありました。続いてトレヴィイの会のオカリナ演奏がありました。午後の公開講演会は、石学長による「郵政改革のゆくえ」で多くの聴衆で講堂が埋まりました。

二日目の十日は、午前中ソシアルダンスクラブの「社交ダンスを体験しよう」があり、午後は、サークルおみや主催の地元さいたま出身の柳家喬の字さんの落語「もう半分」と上尾出身の神田あおいさんの「伊達家の鬼夫婦」の熱演があり、それぞれ好評であった。また、期間中、個人作品の展示ではプロ顔負けの力作も見られ、各サークルの団体活動の展示、



## 学生研修旅行

○学生研修旅行  
平成22年度の学生研修旅行がさる10月26日(火)群馬県富岡市方面へ日帰りを実施された。上州絹の国を訪ねると題し、旧富岡製糸場の見学では、「木骨レンガ造り」の建

## 開講二五周年記念 公開講演会のお知らせ

開催日時 平成二十二年十一月十九日(日)  
午後一時三十分  
開催場所 埼玉学習センター  
テーマ 「新しい都市住居の形 ―マンション問題の今後を考える―」  
講師 本間博文 放送大学副学長

放送大学  
埼玉学習センター  
埼玉CSC交流会  
学生新聞  
編集委員会  
〒330-0853  
さいたま市大宮区  
錦町682-2  
TEL048-650-2611

## 学生募集

平成23年度第1学期教養学部「全科履修生」「選科履修生」「科目履修生」及び大学院文化科学研究科「修士選科生」「修士科目生」の学生募集を左記の日程で行います。

皆さんの友人・知人も放送大学の素晴らしさ・学ぶことの楽しさを伝えて下さい。一緒に学友になりませんか？

・出願期間 平成22年11月15日(月)〜平成23年2月28日(月) 必着

## 大学説明会

大学説明会(学習相談を含む)を実施します。(在学生も参加できます。)

開催日 平成22年12月18日(土)、平成23年1月15日(土)、2月12日(土)、2月20日(日)

時間 いずれも14時〜

内容 大学紹介ビデオ放映



## インタビュー

### 鈴木 悟さん

鈴木さんは、去る9月4日、4コース目を卒業され、生涯学習奨励賞銀賞を授与されました。現在は5コース目に挑戦中です。

Q 放送大学に入られたきっかけは。

A 退職後テレビで放送大学の存在を知り、平成11年4月期に入学しました。

Q 放送大学で長く学習を続けてこられた理由は何ですか。

A 敗戦のはざま少年期を過ごし、生活困難な時代で、学業も中断をせざるを得ない悔みが心底にあり、それが学習意欲の原動力になりました。

Q 放送大学では、これまでどんな勉強方法をとってこられましたか。

A 社会では実務的な知識に終始していましたが、学校では極力広い知識の習得に心掛け、コース群に拘わらず科目を選んで学習しています。

Q 放送大学の学生生活の中で、

## 地デジ対策

放送大学では平成23年10月からBSデジタル放送を開始します。これに伴い平成24年3月には現在のCS放送を終了することとなっております。

これによりCS放送で放送大学の番組を同時再送信しているケーブルテレビ事業者は再送信について終了する可能性があります。現在、ケーブルテレビで放送大学の番組を視聴している方は、契約しているケーブルテレビ局にBSデジタル化以降も放送大学の番組を再送信して頂けるよう依頼して下さい。大学からも各ケーブルテレビ会社に再送信の依頼を行ってはおりますが、利用者からの声が最も有効な手段です。

## 探訪コーナー 第十一回 栃木学習センター

10月16・17日、面接授業の受講で栃木学習センターを訪れた。センターは広大な敷地の宇都宮大学構内の付属図書館の一角にあり、玄関前の大きな銀杏の木から落ちたギンナンが、秋の気配を感じさせた。

事務室へ挨拶にお伺いすると、「埼玉の高松事務長



さんから連絡をいただいています。」「塚原事務長をはじめ事務職員の皆様が、笑顔で出迎えてくださった。学生新聞の取材は、面接授業の合間の昼休みと午後の休憩時間にお話を伺い、

## 第三回 サロンまじつき

平成22年度第3回サロン 講義室で行われます。興味のある方は、是非ご参加ください。

平成23年2月9日(水) 13時30分から第2

## 取材後記

鯨井所長はフランス文学が専門で、23年2月には「フランス料理と食文化の歴史」の面接授業を担当されること。「フランス料理！」と聞いて思わず膝を乗り出した当方に、「フランス料理を食べるの



でした。入学後十余年、現在が至福の時と感謝して居ります。かつて親の背を見て子は育つと言われた時代がありました。長寿社会の到来で第三世代(孫の代)が祖父母の背を見て育つ時代になってしまいました。今、放送大学では元気で、向上心に溢れた白秋期の学生が大勢おり、その背に触発されて、日本の未来を担う人材の育成に微力を尽くせればと……責任は重いと考えています。(文責 若松)

## 学生手帳

「テニスの試合観戦」  
笹原誠二

私はスポーツ観戦が大好きだ。特にテニスの「東レ・パンパシフィック戦」は毎年予選の試合から見に行くことになっている。この大会は4大タイトル戦に次ぐ、女子のみの大会であるが、最近ほとんどの日本選手が予選で敗退して、本選にまで勝ち残れないため、予選から日本選手を中心に応援をしている。

テニスは主として、シングル戦を中心にみるが、国別対抗戦にも興味がある。昔、男子のデビスカップ戦で、どうしてもインドのクリュシナン選手に壁を破れない日本選手に、「ニッポン、がんばれ」と声援したことがある。

女子団体戦のフェデレーションカップ戦では、日本対ドイツ戦が東京体育館で行われ、伊達公子とシェフティ・グラフとのシングル戦は大変感動した。痛めた足をひきづりながら、懸命にボールを返す伊達選手に声をからして応援した結果、その後のダブルス戦も制して、見事に日本が逆転勝利をしたのである。当日、会場では松岡修造氏も大きな旗を振って、まさに会場一帯となって日本選手を応援したのである。



### 第4回埼玉フェスタを終わって 放送大学埼玉CSC交流会代表 笹原誠二

昨年引き続き、埼玉フェスタ（大学祭）が十月九日（土）、十日（日）の2日間、放送大学埼玉学習センターで盛大に開催され、無事成功裏に閉幕いたしました。

この埼玉フェスタにおいて、埼玉学習センター所属の学生団体、同窓会、教職員の3者が一体となつて力を合わせ、密接な連携のもとに、全スケジュールを無事遂行することができましたことは大きな喜びであります。

石学長の公開講演会「郵政民営化のゆくえ」は、身近でかつ関心の高い話題で、参加者も多く、白熱した議論も展開され、大いに盛り上がりました。また、各団体（サークル）主催の多彩なイベントの開催は、その特徴と独特のアイデアを生かした催しが続出し、放送大学の学生はもちろんのこと、来客の方々にも埼玉学習センターの取り組みの魅力・素晴らしさを十分周知させることができたのではないかと思います。

そのほか、個人作品の展示、団体活動展示、バザー、お茶席等の各イベントも多くの人々の関心と興味を深め、当センターの活動の底力を感じさせるに十分でした。

最後に、この埼玉学習センターの各サークル、同窓会、センター教職員そして多くの参加者の皆さんのご協力とご支援に心より感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。

### フェスタ会場スナップ



## 投稿コーナー

### 細道あちらこちら

若松 豊

芭蕉は『笈の小文』の中で紀行文を書く心構えについて種々述べた後「忘れぬ所々後や先やと書き集めはるぞ、なほ酔へる者の妄語にひとしく、いねる人の謔言するたぐひに見なして、人また妄聴せよ」と書いておられるが、そのひそみに倣って私の拙い細道体験をいくつか紹介したい。

『おくのほそ道』ほど、観光産業に寄与している文学作品は少ないだろう。東北・北陸を旅すると、到る所で芭蕉の記念館や句碑に出会うことになる。句碑にいたっては全国で約三千を数えるそうであるから、観光地ばかりでなく普通の街の中にもたくさん見受けられる。専門の学者や俳句の先生は研究の必要があつて現地を訪れるのは当たり前として、一般の方々でも『おくのほそ道』をたどる旅を楽しむ人は多い。その中で特に熱心な方お二人をまず紹介したい。

そのお一人は竹馬で奥の細道を歩いた飯塚進さん。一昨年の3月30日、幸手の権現堂桜並木の下を竹馬にのって通り過ぎてゆく飯塚さんに偶然お会いした。その後、飯塚さんは昨年5月31日、無事奥の細道結びの地大垣に到着されたとの報道があつた。千葉県在住の元中学校長で日本竹馬協会の代表を務められており、72歳での快挙である。世の中にはすごい人がいるものだと思帽するばかりである。

もう一人は弘中孝さん。弘中さんは北九州工業高等学校を定年退職された

あと、『おくのほそ道』だけではなく、全国の芭蕉句碑を12年かけて回った方である。弘中

さんはその成果を『石に刻まれた芭蕉』という分厚い書物にまとめられた。

私はそのような方々の足元にも及ばないが、所用や観光で『おくのほそ道』の経路近くを通る時は、暇があれば所々立ち寄ることにしている。

小松の多太神社

芭蕉は、木曾義仲のファンで、義仲の菩提寺義仲寺に自分を葬るよう遺言して義仲の墓の隣に眠っている。

その木曾義仲ゆかりの多太神社は、JR小松駅からほど近い閑静な住宅街の中に鎮座している。鳥居の前に兜のレプリカがあつて、鳥居をくぐると斎藤利隆の像と芭蕉の像、それに芭蕉の「むざんや甲の下のきりぎりす」の句碑がある。この兜は斎藤利隆の像（現在の熊谷市）を本拠とする武士であつた。かつて父親が戦いに破れ、孤児となつた幼少の木曾義仲を助け、信州の木曾へ逃げてやつたことがあつた。月日が過ぎて平家追討の木曾義仲軍は北陸路を京へと進軍していた。倶利伽羅谷で平家軍を破り、更に敗走する平家軍を追走していた義仲軍は、篠原（現加賀市）の戦いで平家軍の殿を務めていた立派な兜の老武士を討ち取る。その首級を檢分していた義仲は、それがかつての恩人で今は平家方に属していた実盛であることを知って涙を流し、その兜をこの神社に奉納したものである。

この様子は『平家物語』に「実盛最期」として描かれている。奥の細道の旅でこの神社を訪れた芭蕉はここでもまた涙を落としている。（続く）

### インターネット

#### 配信科目について

放送大学の授業科目のうちラジオ科目のほとんどとテレビ科目の一部については、インターネット配信を行っております。キャンパスネットワークからのアクセスでも視聴することができ

#### 通信指導問題

ます。効率的な勉強を進めるために大いに活用しましょう。

なお、配信科目一覧は、図書室並びに8F・9Fの各フロアに配架してありますので利用ください。認定試験を受けることができなくなります。

通信指導問題は、必ず期限までに提出しましょう。

## サークル案内

### サークルおのみや

- 十二月十四日（火） 泉岳寺・義士祭
- 十二月二十五日（土） 行品川駅に集合
- 一月八日（土） 「新年昼食会」 大宮駅西口の「木曾路」において開催
- 十二月十四日（火） パート2階入口集合
- 十二月十四日（火） 忘年会
- 十二月二十一日（火） パソコン教室
- 十二月二十五日（土） 講義室の古文書を読む会
- 十二月二十一日（火） 勉強会の日程
- 十二月二十五日（土） 津山城受渡
- 十二月二十五日（土） 同上
- 十二月十四日（火） 忘年会
- 十二月二十一日（火） パソコン教室
- 十二月二十五日（土） 講義室の古文書を読む会
- 十二月二十一日（火） 勉強会の日程
- 十二月二十五日（土） 津山城受渡
- 十二月二十五日（土） 同上
- 十二月十四日（火） 忘年会

### 未来の会

- 十二月二十一日（火） パソコン教室
- 十二月二十五日（土） 講義室の古文書を読む会
- 十二月二十一日（火） 勉強会の日程
- 十二月二十五日（土） 津山城受渡
- 十二月二十五日（土） 同上
- 十二月十四日（火） 忘年会
- 十二月二十一日（火） パソコン教室
- 十二月二十五日（土） 講義室の古文書を読む会
- 十二月二十一日（火） 勉強会の日程
- 十二月二十五日（土） 津山城受渡
- 十二月二十五日（土） 同上
- 十二月十四日（火） 忘年会

## 詩歌・川柳

### 俳句

秋時雨言い募る娘の声遠く  
静 彥

秋の蝶旅の途中の宿りかな  
安代

月明かり木漏れ日のごと透かし来ぬ  
保子

葉の陰で色づく柿の実のたわわ  
智子

### 川柳

芋虫に食い尽くされし蒟蒻葉 八重子  
健診は異常なしなり秋刀魚食む 春江  
盆栽のはぜも色づく小家かな 光娥  
一分銀旧家において稲実る とく江  
指先に残る香りや菊贈 十詩

品格を問う 四倉 光  
黄泉の国 なげき悲しむ 遣唐使

### はやぶさ7年の軌跡

十一月十一日の熟年会の勉強会は「はやぶさ7年の軌跡」と題して、JAXAの若手研究員の小野瀬直美氏を招き話を聞いた。将来を期待される若手らしく熱のこもった分かりやすい講演であつた。さすがJAXAのH

Pで「はやぶさ」打ち上げ前から地球帰還まで「はやぶさ君の冒険日誌」を連載して好評を得た作者である。質疑も活発で、講演者が宿題にするほどの専門的で高度な質問もあつた。技術の進展に驚嘆すると共に、宇宙への夢が一段と膨らむ勉強会習を実施した。所轄の救命担当官による座学と実技の模擬体験「意識の有無確認・周囲への呼びかけ・救急車手配とAEDの要請・心配停止への気道確保・AEDの取り扱

と、胸部圧迫による心臓マッサージ」を実施した。救急隊員の一刻を争う緊迫な状況説明に、参加者28名が真剣に取り組んで

### 編集後記

公園の落ち葉を踏みしめながら、駆け足で去りゆく秋を感じています。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

第12号は1月下旬に発行予定です。詩歌、随想などの投稿をお待ちしています。

### よもやま話

昨日、韓国の古文書『儀軌』を引き渡すという報道があり問題になろうとしている。

宮内庁所蔵のもので、政府はAPEC、TPP参加検討などで韓国に支援の期待としてお土産の考えなのだろうか？

賠償請求権の放棄を断念して我が国も私的財産を放棄している。放棄しているのに返却でなく「引き渡し」としている。

しかし我が国の古文書も膨大な量が韓国に残っていることも事実で、対馬藩宗家の一万点以上の大量の古文書が韓国にある。韓国側は我が国の古文書を引き渡してくれるのだろうか？

外務省はこの事実を知らなかったようだ。すでに外交チャンネルに載せて進行しているのに調印は阻止できないということだそうだが、皆さん どう思う？